

資料編

目 次

〔資料 1〕 市備蓄物資に係る被害想定・対象人数	
(1) 過去地震最大モデルによる市の被害想定	1
(2) 市の年齢区分別の対象人数	1
〔資料 2〕 現在の備蓄倉庫の状況	
(1) 災害対策拠点備蓄倉庫	2
(2) 避難所防災備蓄倉庫	2
〔資料 3〕 避難所用備蓄物資計画目標	
(1) 食料関連備蓄物資計画目標算定表	4
(2) 生活関連備蓄物資計画目標算定表	5
(3) 発電照明関連備蓄物資計画目標算定表	6
〔参考資料〕 自主防災組織資機材	7

市備蓄物資に係る被害想定・対象人数

(1) 過去地震最大モデルによる市の被害想定

愛知県東海地震・東南海地震・南海地震等被害予測調査結果(平成26年5月発表)の過去地震最大モデルに基づく市の被害想定の中で、避難者が最大6,800人と算定されています。

【過去地震最大モデルによる市の被害想定表】

災害想定	南海トラフで発生するおそれのある地震における震度予測：6弱			
建物損壊数	全壊・焼失棟数：40棟			
人的被害	死者数：5名未満			
液状化	小被害：1% 中被害：1%			
避難者	総数	1日後：400人	1週間後：6,800人	1ヶ月後：400人
	(避難所)	(1日後：200人)	(1週間後：3,400人)	(1ヶ月後：100人)
	(避難所外)	(1日後：200人)	(1週間後：3,400人)	(1ヶ月後：300人)

(2) 市の年齢区分別の対象人数

市が行う備蓄については、避難者6,800人を目安として備蓄数量の算出を行うこととする。また、それぞれの年齢区分別に必要な備蓄品については、下記の対象人数に基づき算出することとします。

【市備蓄物資における年齢区分別の対象人数表】

年齢区分	対象人数	構成割合	年齢区分別に必要な備蓄品
避難者数	6,800人	100.0%	
0歳	41人	0.6%	粉ミルク、紙おむつ、哺乳瓶
1～2歳	95人	1.4%	アルファ米(お粥)、紙おむつ
3歳～	6,664人	98%	アルファ米
10～55歳の内(女性)	1,720人	25.3%	生理用品
要介護認定3以上	109人	1.6%	アルファ米(お粥)、介護おむつ(高齢者用)

※構成割合については、平成31年4月1日現在の年齢別、男女人口一覧表を参考としています。

現在の備蓄倉庫の状況（～平成30年度末）

現在、災害対策拠点備蓄倉庫、避難所防災備蓄倉庫及び水防用資機材備蓄倉庫を市域に設置しています。

(1) 災害対策拠点備蓄倉庫

市内で発生した地震等の災害に対応するため、災害対策拠点備蓄倉庫を設置しています。

No.	名称	面積㎡	所在地
1	市役所防災備蓄倉庫（市役所北防災広場）	70.44 ㎡	追分町 64-1
2	市民公園倉庫（地蔵島）	21 ㎡	上水野町 1-19
3	白山倉庫（埋蔵文化財センター南）	21 ㎡	白山町 1 丁目 47
4	幡山倉庫（幡山支所西）	14 ㎡	幡山町 71
5	西山倉庫（西山広場）	21 ㎡	西山町 1 丁目 43
6	瀬戸蔵（東外階段下）	10 ㎡	蔵所町 1-1
7	※品野倉庫（旧下品野分団詰所）	115 ㎡	品野町 6 丁目 105
8	※本山中学校（4階空き教室）	32 ㎡	道泉町 76-1
9	※深川小学校（3階空き教室）	40 ㎡	宮脇町 53
10	※古瀬戸小学校（西館1階空き教室）	40 ㎡	古瀬戸町 70
11	※祖母懐小学校（2階空き教室）	40 ㎡	萩殿町 2 丁目 178

※令和2年度中に廃止予定。

(2) 避難所防災備蓄倉庫

避難所開設時に速やかに必要な物資が配布できるよう、小中学校避難所に倉庫を随時設置しています。

No.	名称	面積㎡	所在地
1	道泉小学校（体育館北）	9.3 ㎡	道泉町 44
2	深川小学校（体育館南）	9.3 ㎡	宮脇町 53
3	古瀬戸小学校（体育館南）	9.3 ㎡	古瀬戸町 70
4	東明小学校（体育館北）	21 ㎡	東明町 50
5	祖母懐小学校（体育館南）	9.3 ㎡	萩殿町 2 丁目 178
6	陶原小学校（体育館併設）	20 ㎡	原山町 1-3
7	水無瀬中学校（体育館東）	21 ㎡	原山町 1
8	長根小学校（体育館北）	9.3 ㎡	東長根町 166
9	效範小学校（校舎南運動場内）	9.3 ㎡	效範町 1 丁目 1
10	東山小学校（体育館北）	9.3 ㎡	東山町 71

11	水南小学校（体育館南）	9.3 m ²	東松山町 154
12	水野小学校（体育館北）	9.3 m ²	小田妻町 2 丁目 22
13	水野中学校（体育館南）	21 m ²	日の出町 34
14	西陵小学校（体育館北）	9.3 m ²	すみれ台 1 丁目 77
15	南山中学校（体育館西）	21 m ²	ひまわり台 5 丁目 1
16	品野台小学校（体育館併設）	27 m ²	上品野町 1234
17	掛川小学校（体育館西）	9.3 m ²	下半田川町 592-41
18	品野中学校（体育館西）	21 m ²	広之田町 2-5
19	下品野小学校（体育館北）	9.3 m ²	品野町 6 丁目 223
20	幡山東小学校（体育館西）	9.3 m ²	八幡町 455
21	幡山西小学校（体育館南）	9.3 m ²	幡西町 203
22	幡山中学校（校舎南運動場内）	21 m ²	幡中町 106
23	原山小学校（体育館南）	9.3 m ²	原山台 3 丁目 98
24	萩山小学校（体育館東）	9.3 m ²	萩山台 2 丁目 22
25	光陵中学校（体育館南）	21 m ²	萩山台 9 丁目 244
26	八幡小学校（体育館北）	9.3 m ²	八幡台 3 丁目 1

避難所用備蓄物資計画目標

市は、発災直後の生命維持や生活に最低限必要な食料、飲料水、生活必需品等の物資や避難所運営に必要な資機材を中心とした備蓄を計画目標とします。

備蓄物資配分対象者数については、愛知県東海地震・東南海地震・南海地震等被害予測調査結果(平成26年5月発表)の過去地震最大モデルの避難者予測に基づき算定しています。

(1) 食料関連備蓄物資計画目標算定表

区分	No.	品目	備蓄目標	単位	算定方法
食料 関 連	1	アルファ米	41,200	食	1日目 392人×3食≒1,176食 2日目 6,664人×3食≒19,992食 3日目 6,664人×3食≒19,992食 合計≒41,160食 →41,200食とする。 《対象：3歳～》
	2	アルファ米 (お粥)	1,300	食	1日目 12人×3食≒36食 2日目 204人×3食≒612食 3日目 204人×3食≒612食 合計≒1,260食 →1,300食とする。 《対象：1～2歳、要介護認定3以上》
	3	飲料水 (500ml)	42,500	本	アルファ米1食に対し1本備蓄 (10年保存)
	4	飲料水 (2L)	1,700	本	アルファ米に必要な水として42,500食には、 6,800Lの水が必要だが、そのうち50%の断水に 対応する水とすると約3,400L(1,700本/20)を 整備 (10年保存)
	5	粉ミルク	24	缶	1回当たりの調乳量を240ml(粉換算30g)と し、1日5回(粉換算150g)とし、3日分を目 安として1人当たり450gを備蓄 41人×450g≒18,500g 18,500g÷800g缶≒24缶 《対象：0歳》(アレルギー対応)
	6	こっぺぱん	230	本	風水害指定避難所23か所に各施設10本を備蓄 23施設×10本≒230本

(2) 生活関連備蓄物資計画目標算定表

区分	No.	品目	備蓄目標	単位	算定方法
生活 関 連	1	毛布	6,800	枚	避難者 6,800 人分を備蓄 $6,800 \text{ 人} \times 1 \text{ 枚} \div 6,800 \text{ 枚}$
	2	災害用組立トイレ	28	基	指定避難所（地震）小中学校 28 校に各 1 校 1 基設置 男女兼用、車イス対応用 $28 \text{ 校} \times 1 \text{ 基} \div 28 \text{ 基}$
	3	折り畳み式簡易トイレ	120	台	指定避難所（地震）28 校に各 1 校 4 台設置 $28 \text{ 校} \times 4 \text{ 台} \div 120 \text{ 台}$
	4	簡易トイレ （ボックス型）	170	台	指定避難所（地震）28 校に各 1 校 6 台設置 $28 \text{ 校} \times 6 \text{ 台} \div 170 \text{ 台}$
	5	パーソナルテント	170	張	指定避難所（地震）28 校に各 1 校 6 張設置 $28 \text{ 校} \times 6 \div 170 \text{ 枚}$
	6	携帯トイレ袋	30,600	袋	避難所避難者 3,400 人 1 人につき 1 日 3 袋使用すると算定し 3 日間備蓄 $3,400 \text{ 人} \times 3 \text{ 袋} \times 3 \text{ 日間} \div 30,600 \text{ 袋}$
	7	トイレットペーパー	1,530	ロール	災害組立用トイレ及び簡易トイレを使用する避難者一人1日当たり 9m として 3 日分を備蓄する。 なお 1 ロール当たり 60m を基準とする。 $3,400 \text{ 人} \times 9 \text{ m} \times 3 \text{ 日} \div 60 \text{ m} \div 1,530 \text{ ロール}$
	8	生理用品	2,150	枚	女性避難者の内 4 分の 1 を対象とし一人当たり 1 日 5 枚を目安として 1 日間分を備蓄。 $1,720 \text{ 人} \div 4 = 430 \text{ 人}$ $5 \times 430 \text{ 人} \div 2,150 \text{ 枚}$ ※2 日目以降は、応援協定で対応
	9	紙おむつ （乳幼児用）	1,360	枚	1 日一人当たり 10 枚を目安として 1 日間分を備蓄 《対象：0～2 歳》 $136 \text{ 人} \times 10 \text{ 枚} \times 1 \text{ 日間} \div 1,360 \text{ 枚}$ ※2 日目以降は、応援協定で対応
	10	介護おむつ （高齢者用）	660	枚	1 日一人当たり 6 枚を目安として 1 日間分を備蓄 《対象：要介護認定 3 以上》 $109 \text{ 人} \times 6 \text{ 枚} \times 1 \text{ 日間} \div 660 \text{ 枚}$ ※2 日目以降は、応援協定で対応
	11	間仕切り	340	組	指定避難所（地震）28 校の内 小学校 20 校 $\times 10 \text{ 組} \div 200 \text{ 組}$ 中学校 8 校 $\times 10 \text{ 組} \div 80 \text{ 組}$ 拠点備蓄倉庫 6 庫 $\times 10 \text{ 組} \div 60 \text{ 組}$ 合計 340 組 間仕切り 1 組 4.4 m ²
	12	大型間仕切り	28	張	指定避難所（地震）28 校に各 1 校 1 張設置 $28 \text{ 校} \times 1 \text{ 張} \div 28 \text{ 張}$
	13	エアマット	560	枚	指定避難所（地震）28 校に各 1 校 20 枚設置 $28 \text{ 校} \times 20 \text{ 枚} \div 560 \text{ 枚}$

区分	No.	品目	備蓄目標	単位	算定方法
生活 関 連	14	ブルーシート	940	枚	指定避難所（地震）28校の内 小学校 20校×20枚≒400枚 中学校 8校×30枚≒240枚 拠点備蓄倉庫 6庫×50枚≒300枚
	15	哺乳瓶	90	本	一人当たり2本を備蓄《対象0歳》 41×2本≒90本
	16	ろうそく	280	本	指定避難所（地震）28校に各1校10本 28校×10本≒280本
	17	やかん	100	個	指定避難所（地震）28校に各1校3個 28校×3個≒100個
	18	寸胴鍋	100	個	指定避難所（地震）28校に各1校3個 28校×3個≒100個
	19	石鹼	1,000	個	指定避難所（地震）28校に各1校30個 28校×30個≒1,000個
	20	給水タンク	5,600	個	1箱に10個の給水タンク入り 1個10ℓの水が貯留できる。 ・小学校20校に100個 ・中学校8校に200個 ※給水車から受水し貯留又は水バケツの代用として生活雑排水の搬送用に使用できる。
21	タオル	300	枚	指定避難所（地震）28校に各1校10枚設置 28校×10枚≒300枚	

(3) 発電照明関連備蓄物資計画目標算定表

区分	No.	品目	備蓄目標	単位	算定方法
発 電 照 明 関 連	1	発電機	84	台	小中学校 28校×2台≒56台（ガス発電機） 市役所防災備蓄倉庫 4台（ガス発電機） 拠点備蓄倉庫 6×4≒24台（ガソリン発電機）
	2	投光器	168	基	発電機1台につき2基
	3	投光器用三脚	168	脚	投光器数と同数
	4	コードリール	168	台	投光器数と同数
	5	ガソリン携行缶 （簡易ポンプ付）	24	缶	ガソリン発電機台数と同数 ※10ℓタイプ
	6	L P ガスボンベ （5 k g）	60	本	ガス発電機の台数と同数

[参考資料]

自主防災組織配備資機材

災害時等における情報収集・伝達、初期消火、救出・救護、避難誘導、給食・給水等の活動を自主防災組織が実施するために必要な資機材と保管庫を、平成11年から計画的に各連区自治会へ配備しています。

第1期配布資機材（平成11年度～平成18年度）

スコップ	40丁
バール	40丁
メガホン	20個
バケツ	40個
ロープ	10巻
発電機	1台
投光器	4基
コードリール	8個
資機材保管庫	1庫

平成11年度	道泉・深川
平成12年度	祖母懐・效範・水南
平成13年度	品野・下品野
平成14年度	西陵・水野
平成15年度	古瀬戸・東明
平成16年度	陶原・長根
平成17年度	幡山・山口
平成18年度	原山台・八幡台・萩山台

第2期配布資機材（平成19年度～平成24年度）

まかないくん30型	1台
まかないくんバーナー	1台
2×3間OKテント	1張
エンジンチェーンソー	1台
折りたたみリヤカー	1台
油圧ジャッキ	2台

平成19年度	道泉・深川・祖母懐
平成20年度	古瀬戸・東明・陶原・效範
平成21年度	品野・水野・水南・萩山台
平成22年度	長根・下品野・山口
平成23年度	西陵・原山台・八幡台
平成24年度	本地・菱野・新郷

第3期配布資機材（平成25年度～平成28年度）

スコップ	40丁
バール	40丁
メガホン	20個
バケツ	40個
ロープ	10巻
発電機	1台
投光器	2基
コードリール	2個

平成25年度	本地・新郷・水南
平成26年度	效範・長根
平成27年度	水野・山口・西陵
平成28年度	下品野・陶原

※第3期配布資機材については、約3,000世帯を超える自治会に配備しました。

追加配布資機材(平成29年度～平成30年度)

保管が容易であるガス発電機を、すべての自主防災組織を対象に2か年に分けて計2台追加配布。

令和元年度以降に関しては各連区と調整し、必要資機材等を配布。